梅雨時の大雨に伴う農作物等の管理対策

令和２年６月12日
新潟県農林水産部

新潟地方気象台が６月12日10時40分に発表した「大雨に関する新潟県気象情報第１号」によると、新潟県では、14日は激しい雨となり、非常に激しく降るおそれもあります。
今後の気象情報に注意するとともに、下記の管理対策を参考に農作物等の管理に十分注意してください。

１　水稲

【事前対策】

○ほ場への浸・冠水を防止するため、用排水路の点検を行う。

【事後対策】

①大雨時は、河川への影響を考慮し、水尻は完全に落とさず、一定水位を保った上での排水に努める。

②冠水した場合は、稲の葉先だけでも水面上に出せるよう、できるだけ早く排水を行う。

③浸・冠水した場合は、葉色の上昇や稲体の弱体化によるいもち病等の病害や害虫の発生が予想されるため、生育状況の変化に注意し、病害虫の早期発見・適期防除に努める。

④中干し中のほ場では、溝切り後の溝の連結を点検・整備し、停滞水の排水を促すとともに中干しの効果が十分得られるよう努める。

２　大豆

【事前対策】

○地表水を迅速に排水するため、明きょや排水口の連結を点検・整備し、排水路の確保に努める。

【事後対策】

①浸・冠水した場合は、できるだけ早く排水するよう努める。

②湿害による黄化や生育不良などの症状が見られたら、10ａ当たり窒素成分で１～３kgの追肥を行うとともに中耕・培土を行う。

３　麦類

【事前対策】

○地表水を迅速に排水するため、明きょや排水口の連結を点検・整備し、排水路の確保に努める。

【事後対策】

○梅雨時期の収穫は収穫可能日数が限られるため、天候や穀粒水分（35％以下）を見極め、短期間で集中的に刈り取りを行う。また高水分穀粒を乾燥する場合には、品質低下や乾燥ムラの発生を防ぐため乾燥温度の設定に注意する。

４　野菜

【事前対策】

○露地ほ場や施設周辺の排水路等の点検と、明きょ等による排水路の確保に努める。特に、収穫前のたまねぎや開花期のえだまめ等では排水対策を徹底する。

【事後対策】

①浸・冠水したほ場は、明きょやポンプ等を活用した速やかな排水に努める。

②マルチ栽培では一時的にマルチをめくるなどして土壌の速やかな乾燥を図る。

③茎葉が泥により汚れた場合は、できるだけ清水で洗い流す。

④病害が発生しやすくなるので、発生状況を確認して適切に防除を実施する。特に、これまで強風等の被害を受けたほ場では防除を徹底する。

⑤草勢回復のため、葉面散布や液肥等による追肥を行う。

⑥交配中のすいかが着果していない場合は交配を徹底する。

⑦露地の果菜類は、降雨が続いた後の強い日射により果実の日焼けや草勢の低下が懸念されるため、すいかではワラ等で果実を被覆して日焼け防止に努める。

⑧なす等で、しおれ症状が見られる場合は、若もぎによる草勢回復等を図る。

５　果樹

【事前対策】

○明きょ・暗きょの排水路への接続を確認し、排水路の確保に努める。また、排水ポンプ等を使用する場合は事前に保守点検を実施し、遅滞なく排水できるよう準備する。

【事後対策】

①風を伴った降雨の場合は葉の傷みを確認し、必要に応じて追加防除を実施する。

②停滞水が見られる場合は明きょ排水への接続などにより排水を図る。

③収穫を目前に控えたももなどは熟期が早まることもあるので、収穫遅れとならないよう品質の確認を徹底する。

６　花き

【事前対策】

○露地ほ場や施設周辺の排水路等の点検と、明きょ等による排水路の確保に努める。

【事後対策】

①ほ場の停滞水は、根傷みの原因となるので、速やかに排水する。

②倒伏した株は早急に起こし、茎や花穂の曲がりを防止する。

③浸・冠水により茎葉が汚れた場合は、可能な限り速やかな散水により汚れを落とす。

④病害が発生しやすくなるので、発生状況を確認して適切に防除を実施する。

⑤切り花類や鉢物類では、降雨が続いた後の急激な日射により葉焼け（チップバーン）等の生理障害を生じやすいので、日射量に応じたこまめな遮光資材のかけ外しや換気等により適切な温度・湿度管理に努める。

７　畜産

（１）飼料作物・牧草

【事前対策】

①牧草、飼料作物は、浸水による倒伏、根腐れを防止するため、明きょ、溝切りによ

る排水対策を行う。

②調製済の牧草ラップサイレージ等をほ場で保管する場合は、浸水による品質低下を防ぐため、水はけの良い場所に移動する。

【事後対策】

①牧草、飼料作物のほ場に浸水等があった場合は、早急な排水対策に努める。

②河川敷のほ場が浸水した場合は、品質確保のため牧草を刈り取り除去し、再生をうながす。

③流木、土砂等が流入した場合は、これらを除去するとともに、牧草の密度が著しく低下した場合は草地更新を準備する。

（２）家畜管理等

【事前対策】

○畜舎への雨水の浸入を防ぎ、配合飼料、牧乾草は濡れて変敗しないよう、安全な場所に移動する。

【事後対策】

①畜舎への浸水があった場合は排水に努め、水が引いた後、速やかに畜舎、家畜、設備器具の水洗、乾燥、消毒を実施する。特に搾乳機器は、故障箇所の点検を行い、消毒等の衛生対策を徹底する。

②家畜の観察を励行し、異常のある場合は速やかに獣医師の診療を受ける。

③死亡家畜は、速やかに化製場に搬入する等的確な処理を行う。

８　きのこ

【事前対策】

○施設等への雨水の浸水を防ぐとともに、資材類を安全な場所に移動する。

【事後対策】

①施設に被害があった場合は、速やかに復旧し、きのこの生育環境を確保する。

②浸水した施設の電気設備は、起動前に十分な点検を行い、漏電事故が発生しないよう注意する。

③浸水した培養・発生・生育物は速やかに施設外へ搬出し処分する。

④浸水した施設は、空にして水で泥等を洗浄し、残留性のない薬剤で除菌する。

９　漁業全般

【事前対策】

○早めの情報入手に心がけ、大雨が予想される際には漁具や飼育池等の管理に十分留意し、厳重に警戒するよう組合員へ周知する。

【事後対策】

○係留している漁船、漁具や飼育池等を確認する際は、十分な安全を確保してから実施する。